

何を着るべきか、
その答えは
「自分のスタイル」を
まず自身の意志で
確立することにあるのです

服飾史家 中野香織さん

高

校時代は「理数科」に所属し、ほぼ毎日、数学の証明問題を解いていました。

学生同士で、勝手に証明問題を持ち寄り、休み時間に解法を競い合うのです。そのような数学オタクが集う環境においては、「正解」を出すのはあたりまえのこと。いかに「エレガント」な解を出すかで、仲間内から受ける敬意の度合が違いました。ちなみに、「エレガント」な解とは、アインシュタインが特殊相対性理論で用いた方程

式 $E=mc^2$ のように、一切の無駄を排したシンフルな解のこと。一〇行以上に数式が連なるのは、たとえ正解になったとしても、「エレファント」として軽んじられたのです。

さて、時を経て、偶然の導きからファッションを扱う仕事をするようになったとき、ファッションの分野で頻繁に使われる「エレガント」ということばが、数学でいう「エレガント」と、ほぼ同じことをさしていることに気づきました。

英語の「エレガント(elegant)」の語源になっ

たラテン語には、「注意深く選ぶ」という意味があります。当初は「気難しい」というニュアンスの、非難のことばでした。それがやがて「(注意深く選んだ結果)、優美で、上品な」という意味を帯びていくのです。ちなみに、選ばれた人を意味する「エリート(elite)」も親戚にあたることばです。

そのような視点をもって、「エレガント」と讃えられる人を観察すると、共通点を見出すことができます。選び抜いたアイテムによって作り上げられた絶妙なバランスのなかに、その人自身の本質的な魅力が際立って見えること。これがエレガンスの本質であり、自分自身の「スタイル」なるものを求める人が行きつこうとする「正解」の一つであろうと思うのです。

ところで、「スタイル」の構成要素は、服やヘアメイクだけではありません。言葉や教養、趣味嗜好から、立ち居振舞い、表情、交友関係、住環境、食生活にいたるまで、その人を取りまくもの

全てです。スタイルの語源には「鉄筆」の意味があります。鉄の筆で書かれた筆跡のように、諸要素が絡み合い、時間とともに、その人らしさとして定着してしまいうイメージ、それが本来の意味でのスタイルです。歴史に名を残すスタイルアイコンはみな、その言葉や行動や交友関係とともに語られます。

トレンドの高級品を身につけても、素敵な他者の表層を模倣しても、常に一抹の不安から逃れられないばかりか、なかなか理想の「スタイル」にたどりつけないとすれば、それは先に挙げた構成要素のバランスが欠けているのかもしれない。日々の生活の積み重ねの上に成り立つものがスタイル。そうと自覚すれば、生活のあらゆる場面への向き合い方が変わるのではないでしょう。意志的な選択を重ねた暁にスタイルを確立した人は穏やかな自信で満たされ、何を選ぼうとその人自身が際立つものです。

Profile

エッセイスト、服飾史家。

過去二〇〇〇年のファッション史から

最新モード事情までの研究、

執筆、レクチャーを行う。

二〇〇八年より二〇一七年度まで、

明治大学国際日本学部特任教授。

「紳士の名品選」の著書多数。